

虫の動きってかわいいんです♡

学びにも癒やしにも、カブトムシが大好き 古賀 一葉さん こが かずは

幼い頃から虫が好きだった古賀 一葉さん(守山小学校6年)は、自宅で約20匹のカブトムシを飼育しています。
今回は、カブトムシ大好きな一葉さんと、子どもの「好き」を応援する家族を取材しました。

カブトムシとの出会いは保育園
2匹の幼虫が20匹の大家族に

小学6年生の一葉さんは、幼い頃からダンゴムシを100匹も捕まえたり、カメムシを集めたりするほど、虫が好きでした。カブトムシとの出会いはカナリヤ保育園でした。卒園前に先生から2匹の幼虫をもらって、自宅で飼育することになりました。

お父さんとお母さんは、娘のためならと、カブトムシのことを調べ、手探りで飼育環境を整えました。一生懸命に世話をしたかいもあって、幼虫はサナギを経て成虫になりました。一葉さんご家族は「最初はそんなにかわいいと思っていなかった

けれど、無事に羽化した姿を見た時に愛着が湧いてきました」と、当手を振り返っていました。羽化した成虫にメスを引き合わせて繁殖し、今では、玄関を入ってすぐに手作りの観賞用ケージが置かれているほか、大小合わせて14個の虫かごに約20匹のカブトムシを飼育しています。

手作りの観賞用ケージで観察
カブトムシが学びと癒やし

小学生になった一葉さんは、カブトムシの観察日誌「カブトムシノート」を書き始めました。「成虫は夜行性なのに、なぜ学校から帰ると幼虫が土から出ていたの」と疑問を持った一葉さん。2年生の夏休みの

自由研究で、活動時間の実験と観察をすることにしました。学びの中でじっくりとカブトムシとふれあつた楽しさ、自由研究が県学生科学賞で特選に輝いたうれしさで、ますますカブトムシが大好きになったといえます。

それから夏休みの自由研究は毎年、小学生最後になる今年の夏休みも、もちろんカブトムシを研究します。

学校や習い事などから帰ると、一葉さんは時間を見つけては観賞用ケージの前でカブトムシをじっくりと観察しています。予想外の行動や、かわいい動きが昆虫の魅力。たまに脱走して放し飼いの状態になったり、手に直接乗せるとギザギザの足が痛かったり、思い通りにならないところもと、生き物を飼育している魅力の一つなのだと思います。

カブトムシもホタルも
はかない命に愛を注ぐ

少し前まで、一葉さんの夢は「カブトムシ研究所を併設した保育園を作りた」でした。

一葉さんが大好きなカブトムシは、卵からふ化して土の中で3度脱皮、終齢幼虫※の姿で越冬してサナギになります。しか

し、夏に成虫になると3週間ほどで死んでしまう、はかない生き物です。夏の虫のイメージがありますが、実は暑さで死んでしまうこともあるそうです。初夏の夜に光を放ちながら飛翔するゲンジボタルも、同じようにはかない生き物です。

一葉さんは、あまが池プラザ親水緑地でホタルが自生できる環境づくりを目指している「ルシオールキッズクラブ」でも活動をしています。一葉さんの「好き」を応援するご両親も、時間の許す限り一緒に参加しているそうです。

塾にピアノ、ルシオールキッズクラブでの活動、ルシオールジュニアバンド(吹奏楽)での活動と、成長とともに一葉さんますます忙しくなってきました。一葉さんは「どんなに忙しくなっても、家に帰ったらカブトムシが癒やしてくれます。これからも家族でかわいい虫たちを守りたい」と話していました。

家族でホタル自生の環境づくりにも参加

お世話も観察も、ケージの中を眺める一葉さん

一葉さん(中央)とご家族

※終齢幼虫：脱皮を繰り返して、あと少しでサナギになる最終段階の幼虫